

雑司が谷旧宣教師館だより

第50号

平成24年9月30日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5 Tel/Fax 03-3985-4081

2012年

春のガーデンコンサート

今年も母の日（今年は5月13日）、豊島区立雑司が谷旧宣教師館にて『春のガーデンコンサート』が開催されました。今年で13回を迎えるコンサート。毎年コンサートの時期が近付くと日時などの問合せが多くなります。楽しみにしておられる方が多いと当館職員も励みになります。

コンサートの演奏者は加藤悦子先生をはじめ、ギターリストの佐藤弘和氏などいつもの顔ぶれで開催されました。

今年の曲目はフローラカルテット（マンドリン：中尾尚子、桜本久 マンドラ：大淵純子）と佐藤先生による器楽演奏S. マイヤーズ『カヴァティーナ』、R. カラーチェ『星空』など9曲。

第2部は加藤悦子先生（ソプラノ）によるR. シューマン『くるみの木』、W. A. モーツァルト『アレルヤ』など10曲。ほかに参加者全員で中田喜直『お母さん』、岡野貞一『ふるさと』など馴染みのある2曲を歌いました。

演奏された曲の中には初めて耳にされた曲が私にはありましたが、皆さまはいかがでしたか？しかし曲の合間に佐藤先生による解説がありそれぞれの曲の良さなどを楽しむことができました。他のコンサートに行く機会はあまりないですが、かなり丁寧なコンサートだと思っております。「広報としま」でもお知らせしておりますが、事務棟建替えに伴い「秋のコンサート」はお休みさせていただきます。

翌年5月の「母の日のコンサート」は例年通り実施いたします。少し間が空きますが、その際にはお立ち寄りいただくと幸いです。



小高い台地に建っている旧宣教師館

2012年の今年でジョン・ムーディ・マッケレーブの自宅兼オフィスとして建てられた当館は105年目を迎えます。建設されたのが1907年（明治40年）でした。右下の写真は建設当時の旧宣教師館を撮影したものとされています。今でこそ住宅に埋もれてしまい、初めて来館するお客さまにはわかりにく場所になっていますが、建設当時の写真を見ると住宅はありますが、ほとんど畑や荒地だったことがわかります。また今のように生垣ではなく背の低い木の柵で囲っていました。当館のジオラマで見るとよくわかります。

鬼子母神や明治通りから来られる方にはわかりやすいですが、現在旧宣教師館が建つ地は小高い台地の上に建設されています。旧宣教師館や東京都立雑司ヶ谷霊園がある地は標高31m。日本女子大学前の目白通りが23m、神田川に架かる高戸橋は標高12mです。

当初は現在の日本女子大学に隣接した地に建設する予定でしたが日本女子大学の設立者成瀬仁蔵氏の紹介によりこの地に建てられました。目白通りにも近く交通の便がよかった所に建てる予定でしたが、結果として目白台から見ると小高い台地の上に建てられた旧宣教師館や雑司ヶ谷学院などは遠くからも見えるこの地域のシンボリックな存在だったのではないのでしょうか。

さて、ご存知の方も多いですが雑司ヶ谷には数多くの文化人と呼ばれる人々が住みました。宣教師マッケレーブもその一人でした。

では明治40年ごろになぜ雑司ヶ谷が注目されたのでしょうか。次号では当時の交通事情について考えてみようかと思えます。



旧宣教師館の奥にひっそりと建つ二階建てのプレハブ。豊島区が当館を購入する前からある事務棟です。旧宣教師館の研修室として数多くの講座を開催しお客さまをお迎えしてきました。

この事務棟も老朽化が進み、今年度事務棟を建て替えます。翌年の3月には一階建ての平屋の事務棟が建つ予定です。新しい事務棟にはスペースの関係から研修室がなくなります。車いすの方もご利用になれる「だれでもトイレ」を新設いたします。旧宣教師館にご来館の際ご利用ください。



雑司ヶ谷旧宣教師館 事務棟

今年も日差しの強い日が続いています。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

事務棟建替えに伴う引っ越し作業などで慌ただしい日々が続きましたが、ようやく「宣教師館だより」を発刊することができました。

1999年より不定期ながらも刊行し続けることができたのは一重に本誌読者および旧宣教師館来館者のご愛顧のおかげです。この場を借りましてあらためて御礼申し上げます。

今後も旧宣教師館および本誌を通して旧宣教師館とその周辺の魅力を伝えていく努力をいたします。引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。